講演会型＋子育てサロン型（小学校）

学 校 名 等	養老町立養北小学校
実 施 日 時	平成２９年１月１８日
会　　場	養北小学校体育館２階　会議室
参 加 人 数	２０名
学習課題（分野）	家庭教育のあり方
運営者の願い	全国学力状況調査により、自己肯定感の低さが明らかになった。「自分が好きである」「自分にはこんな良い所がある」といった自己肯定感こそが、自立した大人になっていくための土台となる。今回は、講話やグループでの話し合いを通して、「自己肯定感」の育つ、子どもへの接し方を考える機会としたい。

学　習　の　内　容

＜　講演会　＞

西濃教育事務所より、後藤伊都子先生をお招きし、講話をいただきました。後藤先生は本校の前校長でもあり、保護者のことも校区のこともよくご存じで、大変和やかな雰囲気の中、講演会が始まりました。講演の中で、先生は「子どもが自立した大人になるには、『自己肯定感』をもつことが大事である」ことを、力強く話されました。また、その「自己肯定感」は「成功体験の積み重ねとそれを認めてくれるまわりの人」がいることで育つということをいわれました。子育ての中で、親は子どもに期待をするあまり、子どもを叱ったりダメ出ししたりすることが多いのですが、大切なのは「笑顔で、ありのままの子どもを無条件に愛すること。」と話されました。お話の最後に、「そうはいっても、こんな時どうする？」という課題をいただき、グループ討議にはいりました。

＜　小グループに分かれての話し合い　＞

後藤先生からいただいたカードを使って、４～５人の小集団に別れ、話し合いをはじめました。お話の最後にいただいた課題についてだけでなく、現在子育ての中で悩んでいること困っていることを、聞いてもらうことができて、参加されたおかあさん達も、少し気持ちが軽くなったようでした。

＜　講師の先生による朗読会　＞

後に、後藤先生が絵本の読み聞かせをして下さいました。　本の題名は「おこだでませんように」学校でも家でも叱られてばかりの少年の心の内を描いた作品でした。当たり前の事なのだけれど、どんな子も、ほめられたい。認められたい。ほめられ、認められ、受け入れられることが、子どもの「生きるエネルギー」になっていることを、痛感させられる作品でした。

＜　閉会　子どもへのアンケート結果より　＞

あらかじめ子ども達には、家庭教育学級長さんが作成したアンケートに、回答をしてもらっています。その集計結果から、子ども達は両親、祖父母に対して、次のように感じていることが分かりました

〇お父さんやお母さん（おじいさんやおばあさん）のすきなところ

１　やさしい　　２　家事を一生懸命してくれる　　３　宿題を見てくれる

●お父さんやお母さん（おじいさんやおばあさん）のやめてほしいこと・直してほしいこと

１　すぐにおこる　　２　スマホをさわっている・今やろうと思っていることを言う

３　話を聞いてくれない

家庭教育委員長さんは、「今日の講演と、アンケートの結果を踏まえ、子ども達が「自己肯定感」を育めるよう、子ども達への接し方を考えていきたい」と、くくられました。

＜　保護者の意見＞

・グループで、他の親さんとお話しして、同じような悩みを持ってみえることがわかった。

・その当時はすごく悩んでいたけれど、後になればそんなに細かくダメ出ししたり、そんなに叱ったりしなくても、子どもは真っ直ぐ育つものだと、思うことがある。そういったことを、おかあさん同士で伝え合うことで、子育ての不安も解消できるのではないかと感じた。

全国学力状況調査の結果や様々な実験データ、実際の話をおりまぜ、分かりやすいお話をしていただきました。

大きな集団では話せないけれど、小集団なら話せるということもあります。「講演を聴く」というインプットだけでなく、「話す」というアウトプットすることで、本日学んだことを確認することができました。

「読み聞かせ」は、子どもだけでなく、大人に対しても有効です。子どもだけでなく、親も本離れの昨今、絵本は大人にとっても「癒やし」であり、大変心に染みました。